青年俳優の奬勵

時事新報の金牌

演劇は文明の事なり俳優は文明の人なり復た凡俗世界の玩弄物に非ず既に文明の人とあれば其技倆も亦百般の文明事業と共に歩を與にして駸々上達すべきは論を俟たず左れば梨園の巨擘市川團十郎、尾上菊五郎、市川左團治等凡そ老優の輩は蓋道既に已に大成して世間自から一定の評論あれば特に喙を容る可き限りにあらざれども其以下の後進生は則ち然らず日夜勉勵先輩の驥尾に就て進まんとする其趣は正に是れ春風に開くの花夏雨に浴するの草一夜の間に面目を改めて人を驚かすもの多し依て時事新報社は曾て同向院の相撲に銀盃を贈りて大に力士社會の氣風を引立たる先例もあり

かた〳〵世間の好劇家を煩はし是等日新の俳優中に就き誰れか今度歌舞伎座の五月芝居に大に技倆を進めて觀客を悅ばしめたる者か各々其見る所に從ひ優の地位如何に拘はらず役割の利不利を問はず唯その腹前の進歩を標準にして投票せられんみとを乞ふ者なり其投票法は時事新報の此社告文を切抜き指定の場所に目指す俳優の名を記して本社へ送付せらるゝみとなり社に於ては本月三十一日迄に集まりたる其投票數を計へ最多數の者及び以下二名へ金牌を贈る可し亦是れ梨園奬勵の一助たる可き乎

廿六年五月

時事新報社

投票法

一、投票せんとするものは時事新報の此社告を切取り被撰俳優とある下に其俳優の名を記入して本社に送らるべし

一、投票は一枚に一名限り記入すべし

一、撰ぶべき青年俳優は今度歌舞伎座（出勤するものに限る

一、投票は來る三十一日を期して〆切り直ちに開票して其得票最も多きもの三名に本社より金牌を贈る

被撰俳優

時事新報

政府の方針知る可きのみ

近來政府にては部内整理の爲めとて行政整理委員又は海軍整理委員なる種々の委員を設けて熱心に從事する其結果は如何と云ふに即ち政費節減の實を擧るに外ならざる可し抑も政費節減論は民間の政客が年來政府に對する唯一の口實にして實際の難問題なりしに然るに今の當局者は一も二もなく之に同意し民論に對して固き約束を爲したる其約束の旨に從ひ只管實を擧ぐるに餘念なく單に今回の改革談のみならず昨年來の始末を見ても彼の地價修正の案を議會に提出したるが如きは政府自から民論の先陣を勵めたるものにして一見或は怪なるに似たれども其己れを虛ふして他に道はざるの精神は却て大膽なりと云はざるを得ず、或は民論の過激なる軍艦製造費を否決したるが如き如何に政府の温順を以てするも斯る極點までは順ふみとを得ざるみとならん其始末は如何ならんと餘所ながら掛念したりしに偶まゝ〳〵大詔煥發の爲めに局面一變して無難の經過を見たり大詔の煥發は偶然の出來事にして特に其因難を處するが爲めに非ざるは無論なれども凡そ此前後の始末を見れば當局者の方針は自から明白にして虛心誠實只管民論に順ふの方針を執るや又疑ふ可きに非ず竊に聞く所に據れば今回の改革は非常の奮發にして彼の民黨が政府の豫算案に對して削減を試みたる所謂査定案の節減額は凡そ八百萬圓にして尚ほ世間に急激の譏を免れざりしに今度の改革の爲めに減ずる所は或は査定案の上にも出づるならんと云ふいよ〳〵發表の上に非されば確かならざれども今の政府の方針に於ては隨分見らる可き決斷と云はざるを得ず斯くの如き次第にして民論地價の修正を望めば政府は自から先んじて其修正案を提出し政費の節減を唱ふれば更に非常の節減を行ふて査定案をして顏色なからしめんとす、着着民論遵奉の實を擧るものにして今後の事も自から知る可きのみ即ち我輩の推測を以てすれば政府は自から其意見を定めずして都て民論の赴くまゝに方向を轉じ飽くまでも從順を守りて毫も逆ふみとを爲さず而して製艦費否決の如き場合に至れば其次第を上奏して帝室の裁決を仰ぎ奉るみとゝ覺悟したるものならん如何として民論いよ〳〵窮屈にして事實如何ともす可らざるみとなれば既に自から意見を定めずして只管他に順ふの結果は勢かくの如くならざるを得ざれば虛心平氣能く民意に順ふ中にも全く政權を手放して無頓着なるに非ずいよ〳〵國家の大利害に關し事急なる場合には帝室の裁決を仰ぎ奉るの覺悟なれば誠に無難の方針にして若しも内部よりして自から破裂するの患なきに於ては當分の處政府の地位も先づ以て安全なる可し目下に處するの手段としては決して拙なるものに非ず我輩は當局者の爲めに安全の計を得たるを賀せんとするものなり

雜報

○地方の産業

四月八日大津に於て　伊澤良立

今後の四日市

東海道鐵道の爲めに四日市が如何に影響を受けたるやは人の知る所なれども四日市今後の運命は尚ほ考究すべき一問題なるべし何となれば四日市の盛衰は海運に少なからざる關係を有すると同時に勢州は勿論尾濃參遠の荷物集散の中心に異動を起せばなり已に今日にては同地の荷物は鐵道の便に奪はれて箇數漸く減少し尾張の瀬戸物の如きは全く其跡を絶つに至り郵船會社の運賃が一ケ年二十二三萬圓に上りたる盛時に比し近年値かに六七萬圓に下りたる一事にても鐵道の影響したる一斑を知るに足らん左れば四日市港の海運は鐵道と競爭して遂に望なき歟、四日市は結局荷物集散の中心市場たる資格を失ふに至るべきかと云ふに必ずしも然りとは云ふべからざるべし矢張粗大なる貨物は汽船便によるみとゝ便利なるが如く米穀の如き肥料の如き同港出入品の骨子とも云べき貨物は敢て甚だしき異情を呈せざるのみか鐵道の爲めに一半を殺かれたる代りには又鐵道の爲めに新規の地方より出荷あり又需用もありて結局集散を增し諸雜貨の奪はれたる數量を補ふ傾あり今明治二十年より二十四年迄輸出入品原價の統計を見るに素より完全のものとは云ふべからざるも數年間の出入甚だしき相違なきもの〻如し

輸入金額

明治二十年	七、二九二、二六五	圓
同　廿一年	一、二八九、八九一	
同　廿二年	一三、〇二三、八四四	
同　廿三年	一二、〇三三、二九一	
同　廿四年	一一、一六二、八四六	

輸出金額

	七三八六、一〇一	圓
	一五、二四九、八六二	
	一五、二九二、四九七	
	一四、七〇七、二七八	
	一六、〇三八、八四一	

昨年は未だ統計を得ざるも關東豐作の結果として米穀の出荷少なく郵船會社の汽船にて積出したる分、漸く四十一萬三千餘俵に過ぎざれば輸入金額は無論減じたるみとならん同地銀行が取扱ひたる左の出納金額を見て知るべし

入金額

明治二十一年	五、四六五、五〇八	圓
同　二十二年	七、四六五、五〇八	
同　二十三年	八、四一〇、七六七	
同　二十四年	九、一一五、四三二	
同　二十五年	八、七八九、〇二四	

出金額

	五、四五四、一四四	圓
	七、八一七、四一九	
	八、四一七、二九八	
	九、一三四、九二四	
	八、七八一、三七六	

然れども其金額の減じたるは右の理由にして悉く鐵道の爲めにはあらず郵船會社の運輸收入が非常なる減少を見たるは多く乘客の減少したる運賃引下げによりて起りたる結果にして荷物の點に至ては甚だしき變動なし輸入品の肥料大豆等北海道と直接の汽船便により輸入する荷物は素より從前と異なる所なきのみか鐵道便を利用して需用地の區域を廣めたれば寧ろ增加の傾あり又米穀に就ても多少の變化は起したるも伊勢は勿論木曾川筋より積出す尾濃の米穀は汽車便によらずして桑名を經るか又は直接に四日市に出づるみとゝ舊時に異ならず只武豐線によりて半田港に道を借るものあれども關西鐵道の草津に聯絡したる以來は江州米も弗々此の港に出で差引數量に於ては前後相等しかるべし若し關西鐵道が名古屋に通じたらんには是迄武豐線によりて出入したる荷物は里數の長短より却て四日市に出づるものあるべく桑名は之が爲めに多少影響を受くべきも四日市は荷物集散の高を增すとならん已に關西鐵道の便により敦賀の荷物は年々同港に出づる高を增加し來りたるより見ても四日市港は尚ほ商業の一中心市場として繁榮を持續すると疑ふべきにあらず獨り旅客のみは此地に足を留むるものなきより旅宿營業には著るしき影響を及ぼし隨て同港繁昌の一部を殺ぐ外觀甚だ寂れたる所あり又商人の身上に付ても今後變化は多かるべく產を破るものあれば起す者もあらん即ち諸雜品の取次を爲し居たる商人は或は倒れ或は商賣を縮少せん、粗大の商品を取扱ふ者は概して業務を擴張せん是等の變は素より免かれざる所にして今日も其變化の最中なれども兎に角此良港を控へる利益は何時迄も此地に附き纏ふべくして今日迄の地位を維持するみとは難からざるべし此商業地にして只一の欠點とも云ふべきは取引の機關具はらず物價の平衡を得ざる一事なれども同地商人は新條例の發布を幸に昨今取引所の設置に奔走し一箇年八十萬俵以上の輸出ある米穀を始め肥料、製茶の如き重要品の賣買機關を具へんとの計畫あり取引所熱の盛なる今日の事とて他にも競爭市なきにあらざれども此地の如きは先づ資格も具はるみとなれば早晩許可を得るみとなるべく其方法だに宜しきを得ば荷物の集散は增加の四日市は素より商業地にして繁榮なるべきものの尠なからず紡績會社あり精米會社あり皆其熱勃興の當時に起りたるものにして製紙會社の如きは業務の精米會社も外國輸出の不盛況にして目下鏈數三萬に彷彿たり男女職工千四十二三手迄の絲を紡出し十六萬五千英斤（十一萬三百噸）（二千百五十六圓）として供給不足なるより今に分工場を起して一萬錘の增資を內二十四萬圓を他より募集する筈なるきは大抵推知し得らるべの內なり其他此地には內國輸出の不成行を窺ひ居る姿なれども成行を窺ひ居る姿なれども

○三多摩郡の製茶

記したる如く三多摩郡內茶業組合を分離して東京茶業組合聯合會議所の運びに至らざるを以て當時の茶業者總代として山崎議所間を種々奔走したる年度に限り荷票及び商標出すべき旨一兩日前茶業者は大に喜び續々出

○黃白世界

其六　手足胴

今は昔、小亞細亞のフリ

べる國王ありけり、其實

當時無類藏の名は世界に

王は斯る莫大の富を致す

神の使者來りて客人と

纏て其歸りを送りて神の

斜ならず、如何なる事と